

(計画名)	兵庫地区近郊整備区域建設計画
(策定主体)	兵庫県
<p>(地域の課題)</p> <p>(1) <u>震災からの着実な復興</u> 震災から10年余が経過。被災地の人口や経済状況は概ね震災前の水準に回復。被災市街地の再生が着実に進展。高齢者の自立支援が引き続き課題。</p> <p>(2) <u>人間サイズのまちづくりの進展</u> 鉄道駅のバリアフリー化やノンステップバスの導入が進展。今後は、ソフト面も含め総合的にユニバーサルデザインのまちづくりを進めることが必要。</p> <p>(3) <u>美しい地域づくりの進展</u> 無電柱化の推進等により、調和のとれた美しいまちなみ景観を創出。今後は、身近に自然とふれあえる場の整備など、生活空間の質的な充実が重要。</p> <p>(4) <u>都心居住の進展</u> 既成都市区域への人口流入が一層進み、計画区域である都市郊外部が過疎化する懸念。特色あるまちづくりを進めることが課題。</p> <p>(計画の概要)</p> <p>(1) <u>ユニバーサル社会の構築</u> 誰もが地域社会の一員として安心して暮らし、持てる能力を発揮できる「ユニバーサル社会」にふさわしい生活空間の形成に取り組む。</p> <p>(2) <u>災害への対応・減災社会の構築</u> 平成16年の台風23号等相次ぐ自然災害や発生が予測される東南海・南海地震に対応し、被害を最小限に抑え、被害を防止する減災社会の構築に取り組む。</p> <p>(3) <u>地域資源の活用</u> 人口減少社会の到来に伴う都市間競争の激化に対応できるよう、自然・景観・歴史・文化・産業等の地域資源を生かした特色ある地域づくりを進める。</p> <p>(4) <u>都市緑化の推進</u> 従来の公園整備だけでなく、県民緑税を生かしたまちなみ緑化やグラスパーキング化、屋上緑化など様々な手法で都市部の緑化を進める。</p> <p>(5) <u>社会ストックの多様な活用</u> 限られた資源で最大限の効果を発揮するため、『「つくる」から「つかう」』を徹底し、用途の転換等により既存の社会ストックの有効活用を進める。</p> <p>(6) <u>交流基盤の一層の充実</u> 生活の広域化と地域間の交流を支える交通網の整備を進めるため、高速六基幹軸など幹線道路網の整備をはじめ鉄道などの公共交通を整備する。</p> <p>(7) <u>郊外ニュータウンの再生</u> 多機能なまちへの転換等による郊外ニュータウンのにぎわいの回復に取り組む。</p> <p>(8) <u>参画と協働のまちづくりの拡大</u> 行政と住民とのコミュニケーションを通じ相互の信頼関係を構築し、公民協働の良質な基盤の整備に取り組む。特に、人と人のつながりの回復を基調に、コミュニティの再生に向けた取り組みを展開する。</p>	